

第3章 将来の目標像

第3章 将来の目標像

1 基本理念の設定

本市は、わが国の主要な工業地帯である京葉臨海工業地帯の中核都市として発展を遂げてきました。一方で首都圏という立地にありながら四季折々の自然が体験できる魅力ある里山の自然環境を多く残しています。本市が持つ、この異なる2つの魅力は、引き続き人や情報を交流させ、経済的な効果を持続させていく上での重要な資源です。この特色を十分に活用し、いかに高めていくかが今後の持続的な発展にとって大きなカギとなるものと言えます。

長引く景気の低迷や社会経済環境の変化により、わが国の産業界では、新たな活路の模索が続けられています。これは市内の産業においても同様であり、市民の生活環境を維持向上させ、今後とも選ばれる都市になるためには、臨海部に立地する大企業だけでなく、地元の中小企業、市民、行政がより連携を図りながら、チャレンジを続けていく必要があります。

このような連携において、行政は、市内産業について積極的なかかわりを持つことで、引き続き工業地帯としての優位性を保ちながら、その活力を地域の産業にも波及させると共に、新たな魅力づくりを地域内外と調和を図りながら力強く牽引し、市民や企業にとって住みやすく・働きやすく・誇りに思えるまちづくりを進める役割が求められています。

この取組に向け、市民、企業、行政が共有する基本的な理念を定め、市の産業の一層の振興を図ることが望まれます。

基本理念

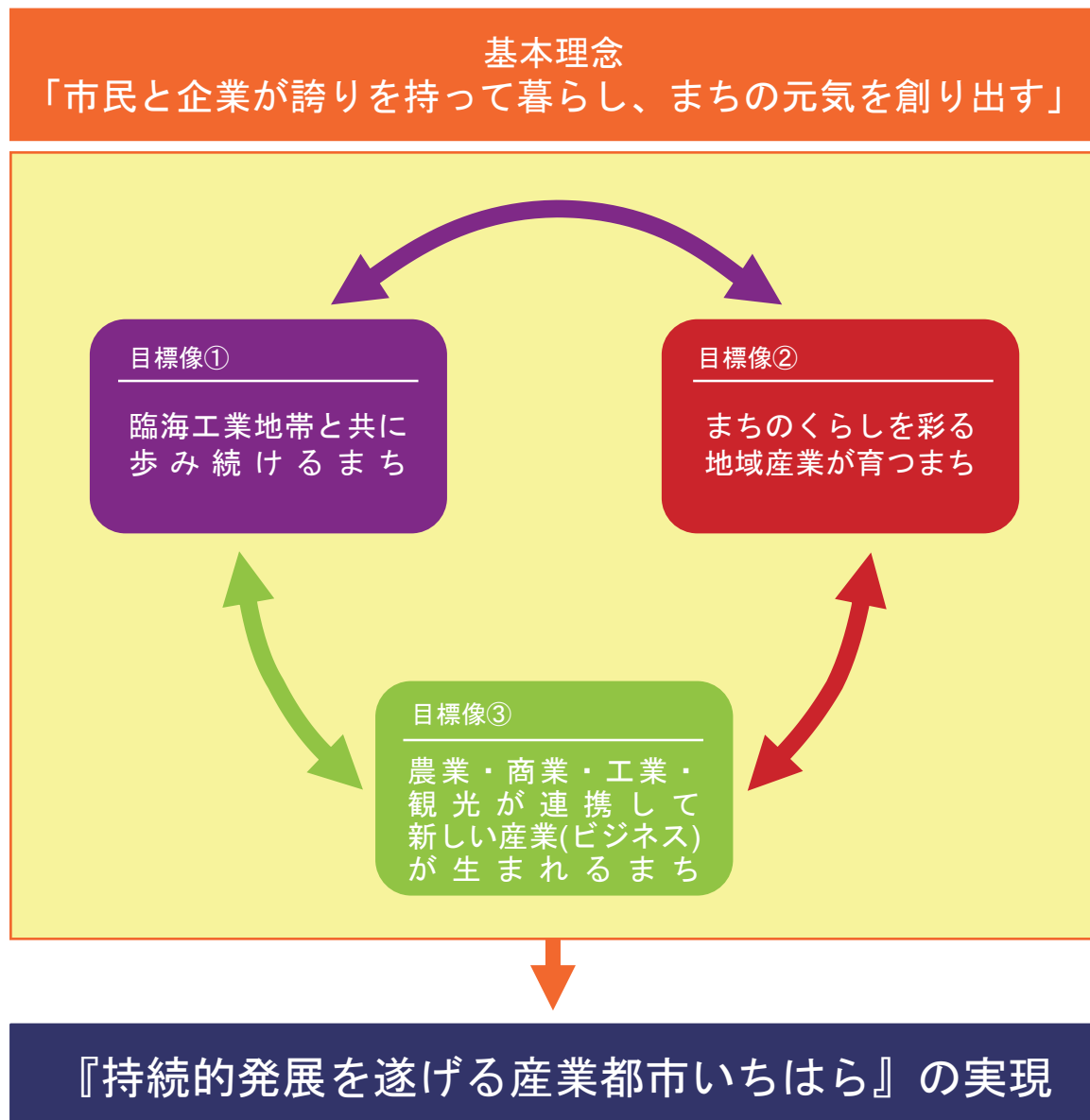
市民と企業が誇りを持って暮らし、まちの元気を創り出す

2 将来の目標像の設定

市原市産業振興ビジョンは、概ね10年後の将来を見据えて策定しています。前述の基本理念を基に、本市の産業振興上の課題を踏まえ、「10年後にこのようなまちであってほしい」という望ましい産業都市の姿を「3つの将来の目標像」として掲げます。

3つの将来の目標像の実現に向けた産業振興の取組を連携・連動して進めることにより、「持続的発展を遂げる産業都市いちほら」の実現を目指します。

- 目標像1 臨海工業地帯と共に歩み続けるまち
- 目標像2 まちのくらしを彩る地域産業が育つまち
- 目標像3 農業・商業・工業・観光が連携して新しい産業(ビジネス)が生まれるまち



目標像 ①

臨海工業地帯と共に歩み続けるまち

● 現状と課題

本市は、わが国有数の工業都市であり、石油化学工業では日本一の規模となっています。石油化学以外でもわが国を代表する製造業の生産拠点が立地しています。しかし、老朽化が進む設備、立地規制、海外との激しい競争など、臨海部工業を取り巻く環境は厳しさを増しています。このため、本市独自の産業振興策として、臨海部に立地する企業の操業環境の向上、国・県・企業などと連携した臨海部工業の振興を実現することが課題となっています。



● 10年後の望ましいまちの姿

- 本市に立地する臨海工業地帯は、引き続きわが国の製造業の最重要拠点として、事業活動を続けています。
- 製造品出荷額等では、再び全国第2位となっています。
- 立地企業は、国や県、市の支援を受けながら、コンビナートとしての連携を深め、事業の効率化が進んでいます。また、高付加価値品を製造する新たな業態にも進出し、競争力を高めています。
- 企業として操業がしやすいまちであると共に、従業員や家族にとっても住みやすいまちとなっています。

● 目標像を実現するための戦略

近年の経済のグローバル化を背景に、臨海部に立地する各企業は厳しい国際競争や様々な経営課題に直面しており、規模縮小や事業の撤退の動きなどが加速しつつあります。

こうした状況を打破するためには、既に本市が取り組んでいる企業立地奨励金制度の活用やワンストップサービスによる即応など、企業が事業活動しやすい環境を一段と整備する必要があります。こうした取組を通じ、本市に立地する価値を高め、臨海部工業地帯の競争力の強化を図ることが重要です。

臨海部工業の競争力強化

目標像 ②

まちのくらしを彩る地域産業が育つまち

● 現状と課題

全国で市民生活と密接な地域産業を振興する取組が活発化してきています。本市の地域産業も食生活、商店街、公共交通、就業場所など、“まちのくらし”の基盤となる重要な役割を果たしています。

本市の地域産業の中核は多くの中小企業が担っています。今後は、中小企業の経営基盤の強化などを図り、地域経済を牽引していく能力を確保するための支援が課題となります。



● 10年後の望ましいまちの姿

- 経営革新や新事業進出への意欲が旺盛な「元気な中小企業」が数多く存在しています。
- 社会貢献や社員の福利厚生に熱心に取り組む企業が増え、全国に誇ることのできる企業が存在しています。
- 中心市街地などの大規模商業施設には多くの集客で賑わうと共に、地元商店街には工夫を凝らした魅力ある商店が並び、市民の楽しみの一つとなっています。
- 若者や女性など、起業を志す市民が増え、市や商工会議所などによるバックアップ体制が整っています。

● 目標像を実現するための戦略

地域の中小企業をめぐる経営環境は厳しい状況が続いており、社会経済環境の変化に多くの企業が有効に対応できない状況も見られます。このような厳しい環境を生き残るためには、企業自らが経営革新に取り組み、自立化することが求められています。

そこで、中小企業の経営基盤の強化や新たな業種への進出など、中小企業の主体的な取組を促すような多彩な支援メニューを用意し、地域に深く根ざした「元気な中小企業」を数多く育てていくための取組が重要です。

地域経済を牽引していく中小企業

目標像 ③

農業・商業・工業・観光が連携して新しい産業(ビジネス)が生まれるまち

● 現状と課題

本市は、北部には工業都市や住宅地、中間部には美しい田園や里山の風景、南部には豊かな自然が広がるなど、多様な表情を持っています。さらに、良質な農産品や整備された交通網などと合わせ、新しい産業（ビジネス）を生み出すための優れた地域資源であると言えます。「中房総国際芸術祭いちほらアート×ミックス」は、こうした地域のポテンシャルを活かし、地域活性化に取り組んでいます。

首都圏への近接性や豊かな地域資源という強みを最大限に活用した新たな産業振興を進め、交流人口の拡大、地域製品の販売拡大、内陸部への産業誘導などを図ることが課題となります。



● 10年後の望ましいまちの姿

- 「中房総国際芸術祭いちほらアート×ミックス」が定期的開催され、国内外から多くの交流人口が本市を訪れています。
- アート×ミックスに関連して、「食」「土産品」「スポーツイベント」など新たなビジネス機会が生まれています。
- 広大な市域、全国有数の工業、地元商業、優良な農地、美しい田園や里山の風景、豊かな自然や温泉などの観光資源といった各産業の連携による新たなビジネス機会が生まれています。
- 内陸部にも企業立地が進み、地域バランスのとれた産業構造となっています。

● 目標像を実現するための戦略

圏央道の開通により、本市には様々な人々が訪れる機会が拡大しています。本市がより魅力的なまちになるためには、人々の交流をチャンスとして捉え、農業、商業、工業、観光の各産業が連携し、豊かな地域の資源を活かした新たなビジネスを創造することが求められます。

また、広大な市域や交通アクセスなど、地域のポテンシャルを最大限に活用し、成長が期待される分野を中心に、新たな企業を呼び込むことで、本市産業の多角化や重層化を図ることが重要です。

新たなビジネス機会の創出

